

米国におけるキノコを中心とした 代替医療の現状について

庄 邨 (米国ニュージャージー州、バイオリサーチ研究所主任)

昔から、キノコは身体によく、特に、サルノコシカケ科のキノコは癌に効くと言いつたえられてきました。漢方薬、和漢薬には靈芝、カワラタケ、シロキクラゲ、冬虫夏草、チョレイ、コフキサルノコシカケなど数多くのキノコがよく用いられます。70年代に入り、キノコの抗腫瘍本体は活性 β -グルカンであることが明かにされてから、キノコの生理活性成分の研究と利用が注目を浴びています。

マイタケはサルノコシカケ科の中で唯一の食用キノコです。その独特の歯ざわりや味と香りの良さから、食用キノコの一級品とされています。80年代前半から、日本の研究者を中心に、マイタケの生理活性についてかなり詳しい研究がなされてきました。マイタケには多量の活性 β -グルカンが含まれ、動物試験や多数の臨床実例の結果、その抗腫瘍活性は非常に高く評価されています。この他、マイタケ由来の多糖蛋白複合体及び他の生理活性物質に生体免疫機能の賦活、ホメオスタシスの維持、体調リズムの調節、更に、糖尿病、高血圧、高脂血症、肥満、便秘などに対する予防と改善効果もあることが認められています。

一般のアメリカ人にとって食用キノコといえば“マッシュルーム”のことであり、他のキノコは殆どなじみがありません。健康食品業界や代替治療医の間でも薬用キノコに関して、わずかに靈芝、カワラタケ、シイタケが知られているに過ぎませんでした。このような国で、今日、マイタケD-フラクションが大勢のアメリカ代替治療医に受け入れられているのはニューヨーク在住の白田正樹氏を中心とした日本人の努力した結果でした。1991年春、日本国立予防衛生研究所のエイズ研究班がマイタケエキスに抗エイズ作用があることを発見しました。翌年1月、アメリカ国立ガン研究所が行った再試験の結果によって、このマイタケエキスには強力な抗エイズ作用がある事が確認されました。この事実はマイタケをアメリカで普及するのに決定的な一歩でした。

この数年間、アメリカの多くの臨床医によって、マイタケD-フラクションの抗腫瘍などの生理効果が認められています。その一部を選んでご紹介致します。

一、抗腫瘍

これまで、世界各国の研究者多数の努力にもかかわらず、まだ決定的な化学抗癌剤は出現しておりません。現在、臨床に使用されている化学抗癌剤は癌細胞に対する阻害に重要な役割を演じ、同時に、骨髄細胞、リンパ細胞などの正常細胞を破壊してしまうので、深刻な副作用があると言えます。これまで、キノコ由来の多糖体で免疫療法剤として登場してきているのはカワラタケからのPSK、シイタケからのレンチナンとスエヒロタケからのシゾフィラン三種類です。一方、サプリメントとして注目されているのはマイタケ由来のD-フラクシオンです。マイタケD-フラクシオンは活性 β -グルカン蛋白複合体を主体とした画分で、経口投与することによって、生体の免疫機能を賦活させ、又、免疫力を高めることによって、発ガンを防ぎ、ガン細胞の増殖や転移を抑制する動きがあるとされており、

コネチカット州のロバート・M・マーフィー医師は患者にマイタケD-フラクシオン・エキスをよく使用していますが、ある脳腫瘍患者の改善状況を次のように記録しています。44歳男性の患者は1994年5月に脳腫瘍（粘液腺癌）の診断を受け、更に、左太股にも腫瘍があることが分かりました。まず、彼は脳内の水腫を縮小させるため、デカデيونと脳全体に放射線療法10回を施しました。1994年8月にこの患者に対し、マイタケD-フラクシオン（200mg／日）を中心とした代替薬による治療を始めました。1994年10月19日付けのMRI報告にはこう書かれています。「……前回のMRIと今回の検査の間に、腫瘍の状態はずいぶん改善されています。前回の検査では、腫瘍は14箇所に見られましたが、今回の検査では5箇所に確認できるだけです。さらに、数だけでなく、それぞれの腫瘍の大きさも全体的に縮小されています。例えば、左前部にある一番大きな腫瘍は、以前は3.5cm×3.5cm×2.8cmぐらいの大きさでしたが、今回は2.2cm×2.2cm×1.5cmほどに縮小しています。」

アリゾナ州フェニックス市でのアプラム・バー医師はマイタケ・プロダクツ・インクがマイタケ・グリフロン錠を販売開始して直ぐ、自分の治療に取り入れたマイタケ長期愛用者の一人です。彼は「マイタケは前立腺癌に対して優れた効果を持っており、少なくとも今までに12名の患者に著しい症状の改善を見た」と述べています。更にバー医師は「マイタケには利尿効果もあり、泌尿の頻度も、流れ（勢い）もとても改善され、前立腺肥大の治療や、その予防にも使える」と提言されています。

二. 抗HIV

現在、世界のHIV感染者は約1000万人を超えます。日本の厚生省の報告によると、1997年日本国内で見つかったHIV感染者は647人ですが、近年ずっと上昇の傾向になっています。臨床にはいくつかの化学薬品は認可されていますが、いずれも厳しい副作用が伴い、決め手になる治療方法はまだ見つかりません。通常、エイズ患者の免疫力が低下していき、それによって、二次感染した病気から回復出来ずに死に至るケースが多い難病ですが、一方では、免疫力を賦活、持続することによって、HIVに感染していても、エイズへの進行を防ぐことも可能と考えられます。

HIV陽性である女性（20歳）の受けていた治療はAZTが中心で、副作用もひどい上、病状は少しずつ悪化してしまい、ついに、1994年末AZTの服用を停止しました。1995年2月の血液検査の結果はCD4は280、7月にはCD4は208まで落ち込んでしまい、カポジ肉腫やカリニ肺炎というエイズ特有の病気が発症しました。11月よりアメリカカリフォルニア・パシフィック・メディカルセンターに勤めているジョン・D・カイザー医師の紹介によってマイタケ錠剤に加え、D-フラクシオン・エキスを飲み続け、1996年2月再度血液検査をした結果、CD4は何と431に増え、CD4対CD8の比率は0.8に改善されました。そして上記エイズの症状も消えました。その後、HIV陽性が陰性になったという朗報はまだですが、彼女の気分がよくなってきて、通常の健康人と変わらぬ生活をしているようです。

三. 血糖降下

昨今、Ⅱ型糖尿病の症状を緩和する目的で医薬品がいろいろ出回っていますが、多くの薬は膵臓にあるランゲルハンス島のベータ細胞を刺激して、インシュリンの分泌を促進するものです。しかし、その問題点は、しばらくはインシュリンの分泌が十分になったとしても、長期的には膵臓の機能を低下させ、結局、インシュリンの分泌を干上がらせてしまう結果になります。最近の研究によれば、「マイタケが“インシュリン抵抗性”を取り除き、“インシュリン感受性”を高めることにより、血液中のグルコースのレベルを調整することができる」と論じられています。これまで、いくつかのマイタケと糖尿病に関する文献が発表されていますが、そのメカニズムについてはあまり触れておりません。糖尿病治療におけるマイタケの可能性に大きな期待を持つ米国ジョージタウン大学医学部ハリー・プルズ博士研究グループは現在その活性物質の確認とメカニズムの判明

に関する研究を進めています。

四. 血圧降下

ニューヨーク市内のホリスティック医療研究基金のディレクターを勤めるS. ガーソン医師は、マイタケの血圧降下作用の臨床実験を試みました。

46から68までの男女11名（男性7名、女性4名）が対象です。いずれも本態性高血圧という診断を下された患者が実験に参加しました。11名全員が一日に朝晩二回、食事の後最低90分経過してから、500mgマイタケ錠剤を3粒ずつ飲むように指示しました。血圧は、毎回同じ診療室の環境で、平均6週間にわたって、週に一回測定しました。結局、収縮時血圧値では平均14mmHg、弛緩時血圧値では平均8mmHgが降下しました。どの患者からも副作用らしき報告は全くありませんでした。通常の高血圧降下剤を服用している患者はしばしば、吐き気、めまい、頭痛といった副作用に悩まれます。ガーソン医師はレポート中で“マイタケが確かに高血圧患者に対する血圧降下作用を持っていることはもはや疑う余地がない”と結論づけています。

マイタケの抗高血圧について、同様に米国ジョージタウン大学医学部ハリー・プルズ博士研究グループはその活性物質の確認とメカニズムの判明に関する研究を進めています。

五. 慢性疲労症候群

慢性疲労症候群といわれる病気があります。一日中、身体がだるくて何事もする気が起こらず、また何かをしようとしても集中力がなく長続きしなくなり、このような症状が何か月も、何年も続き、通常の世界生活ができなくなるケースが多く、まさに当人にとっては病により人生を台無しにされ、生き地獄さながらの状態です。ニューヨーク市にあるコーネル・ストラング・キャンサー研究所のジョージ・ワング博士は多くの慢性疲労症候群患者を診てきました。ワング博士によれば、治療薬がないのですから、患者も医師も暗中模索ですが、明かに患者の免疫力は健康人に比べ低下していますから、免疫を活性化することによって、ある程度の症状を改善させることは期待できます。そこで、マイタケD-フラクシオン・エキスを試して見たところ、疲労の症状が改善され、良い効果があると判明しました。

アメリカで最も著名な代替治療の研究者の一人であるアンドリュー・ワイル博士がマイタケのことを“キノコの王様”と賞賛し、「マイタケの薬効に関する研究は他のどのキノコよりもしっかりしているし、勝れている……。今、私が滋養強壮に選んでいるのはマイタケD-フラクション・エキスで、それを飲み始めてから風邪も引いたことがない……」と述べておられます。

最近では、純粋な西洋医学の教育を受け、代替医療には全く無関心であったメディカルドクターの間でも、代替医療に興味を示す先生方が増えています。これは、彼等自身が西洋医学の限界を認識しつつある事と関係があります。一方、患者たち自身がテレビ、ラジオ、そしてインターネットを通じて、幅の広い知識を得るべくよく勉強しているので、患者から様々な代替治療に関する質問を受けなければならない、という現状を無視してはいけません。面白い統計があります。メディカルドクターの3人に1人は「自分又は愛する家族が難病にかかったら代替治療を取り入れる」と答えているのです。

今年2月、アメリカFDAはマイタケD-フラクションエキスの新薬申請用の試験を許可しました。今、乳ガンと前立腺ガンの進行患者を対象としたPhase IIの臨床試験が行われております。今回、FDA認定下による臨床試験に踏み切った事は、東洋が生み出したキノコの効用をアメリカの医療関係者に認識して頂くという大きな意義を持っていると思います。